

10月26日（日）伝道礼拝レジュメ

「空しさからの解放」 伝道者の書1章14, 15節

「空しさ（むなしさ）」とは、心が満たされず、物事や人生に何の意味や価値を見いだせない、虚ろな状態を指します。これは喪失感や無力感、孤独感と深く結びつき、生きがいや目的を失ったとき、または期待通りに物事が進まず、努力が無駄に終わったと感じる際に生じる感情です。

「空しさ」の具体的な意味

- **感情的な意味:**

心にぽっかりと穴が開いたような、満たされない感覚です。

- **価値の欠如:**

自分自身や人生、世の中に意味や価値がないと感じる状態です。

- **空虚さ:**

感情や生活が空っぽで、中身がないように感じられることです。

「空しさ」が生じる主な原因

- **喪失感:**

大切な人や物、あるいは生きがいや自信を失うことで生じます。

- **目的・目標の欠如:**

人生の目的や目標を見失い、何のために生きているのかわからなくなった状態です。

- **失敗・無力感:**

努力しても物事がうまくいかず、「何をしても無駄だ」と感じ、無力感に陥る場合です。

- **孤独感・孤立感:**

周囲に頼れる人や、居場所がないと感じる状態です。

- **環境との不一致:**

自分の持つ基本的な価値観（コアバリュー）と、現在の人生の状況が一致していないときに空しさや違和感を感じることがあります。

「空しさ」の類語：虚無感、空虚感、喪失感、孤独感、寄る辺なさ

2021年10月27日付日経新聞に「空しさをかみしめる」と題して、精神科医のきたやまおさむ氏のコラムが掲載されていました。「この埋まらない空虚に駆られ、不安や悪い癖で埋めようとしはじめるケースがある。いっぱい買い物をしたり、やけ食いや酒で紛らわしたりという方法もある。これを処理するための一番無害な方法は、噛み締めることだ。日本人は、この世が宙に浮かぶ「浮き世」で、実は憂鬱な「憂き世」だし、人間が「空蟬（うつせみ）」で空虚な存在であることを日常的に味わってきた。私は、「はかなさ」とか「おもしろうてやがて悲しき鶺舟（うぶね）かな」（芭蕉）に描かれる世界観は、美学に通じ、空虚を噛み締めるために今一番必要とされる方法であるように思う。結局はどうしようもない、仕方がない、救いようがないのだから。ま、いいかとため息をつくしかない。」

要は、空しさというものは人にはどうすることもできないということ。なぜ空しさが出てくるのか。それは、人は簡単にどうしようもない、仕方がない、救いようがないとは割り切れないということなのだろう。何とかするのであれば何とかしたいという気持ちがあるのではないか。そう考えると、人生捨てたものではないと思いつつ、誰もが真剣に生きようとしているのだろうと思う。しかし、そうできないのはなぜなのだろうか。それは、人の満足には、きりがない。「まさに風を追うようなものだ」と言われているとおり。15節で「曲げられたものをまっすぐにはできない」とは、不合理だと思ふものを正したり、すべてを自分の思うとおりに整えられないということ。「欠けているものを数えることができない」というのも、本来私たちを取り巻く世界にはあるべきはずのものがいないというのは自明のことであって、それはなければならぬと考えると、それをどうしても手に入れるというのは意味がないことであって、そのようにしてもともと欠けているものをもし私たちが数えようとするならば、そこに私たちは満たされない思いをかかえることとなり、空しさを感じることになる。ですから先ほどのきたやまおさむ氏のように仕方がないと思えるのか、なお曲げられたものをまっすぐにし、欠けているものを数えようとするのかということ。

もし神様を抜きに考えるならば私たちの人生は空しいということになる。クリスチャンは神を計算に入れて常に人生を考え、人生を生きている。しかし、生きていればクリスチャンであっても喪失感を経験し、心にぽっかり穴が開いたような満たされない感覚を持つことがある。しかし、神様がそれを埋めてくださると私たちは信じている。「いつくしみ深き」という讚美歌は、船事故と病気で二人の婚約者を亡くしたジョセフ・スクライブンという人が母親に宛てた手紙がもとになっていると言われている。愛する人を亡くした喪失感から来る人生の空しさ、悲しみの中で生きる意味すら見失いそうになる中で、彼はイエス・キリストが自分を慰め、労わってくださることを経験し、心に慰めを経験した。また深く落ち込む経験をした私の友人の牧師に、お見舞いに行った教会員の方が「それは大変でしたね。でもね神様がええようにしてくださいますよ」と言われた。

すべてが空しく、風を追うようなものだとクリスチャンでも思う時に、神様がええようにしてくださると、すべてを神様におゆだねすることができる。自分で曲げられたものをまっすぐにしたり、欠けているものを数えようとしなくても、すべてを神様にゆだねて、必要と神様が思われれば、神様が曲げられたものをまっすぐにされ、欠けたものを数えてくださるということ。そして、聖書の言葉と祈りを通して神はジョセフ・スクライブンだけではなく、私たちを慰め、励まし、私たちの人生を日々満たしながら、導き続けてくださるお方。もちろん私自身も人生でこれだけ長く生きればいろいろなことがありましたが、常に満ち足りた思いを与えてくださり、自分が神に生かされて良かったと思えますし、神を信じて生きる人生に意味があると思える。ぜひ神を信じていただきたい。